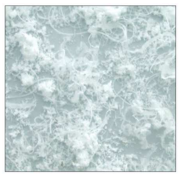
Turbo HB

ヒンジコンベア

混合切粉に対応可能

工作機械周辺装置の
ワンストップショップ



生産性の向上

LNSのTurbo HBはコストパフォーマンスに優れたヒンジベルトタイプのコンベアです。 クーラントを濾過する必要がなく、粗大な切粉や糸状の切粉などが混じった混合切粉の搬送に最適です。

多様な用途に使えるコンベア

工作機械に対して様々な仕様が要求されるのと同様に、コンベアに対しても材料、切粉形状、設置面積など多くの処理能力が求められています。

Turbo HBは様々な物理的な制限や排出方向に対応できる多種類のフレームが用意されています。 混合切粉や油性・水溶性クーラント液に対応できる特製ヒンジベルトを採用しています。

優れたフレーム構造

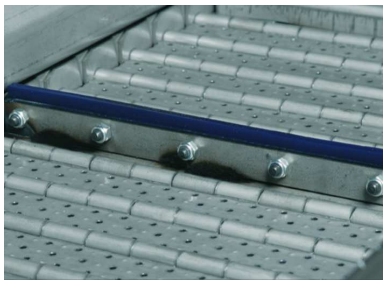
独自のフレーム構造により、高荷重や高摩耗の条件下でも安定した稼働率を実現しました。 大量の切粉でも搬送可能な耐久性の高いフレーム構造を採用しており、負荷の大きさに合わせて最適な板厚で設計しています。

摩耗が激しいカーブ部分については、曲線の開始・終了部に切粉が堆積しないように設計されており、安定した稼働率と高い耐久性を実現しました。

用途に合わせたベルト

切粉やクーラント液の仕様にあわせて運用できるように、複数種類のベルトを用意しています。

切粉を搬送する場合、コンベアの搬送方法(ベルト)は非常に重要な要素となります。ヒンジベルトの場合、サイドプレートとカキ板の高さが搬送能力の鍵となります。 また、クーラント液を排出するための穴が切粉搬送の妨げにならないように、いくつかのオプションも用意されています。 標準用途の場合はルーバー型、高粘度クーラント液を使用する場合は穴開きプレート、と使い分けることができます。 標準ベルトの場合、プレート中央にリブをつけることで耐久性を上げるとともに、カキ板に切粉が付着することを防いでいます。



トラブルフリーなコンベアを目指して

チップコンベアは非常に劣悪な条件下で使用されます。LNSは40年以上の長い経験に基づき、信頼性が高くトラブルのないコンベアを目標に開発をつづけてきました。
LNSのヒンジベルトには、コンベア本体の底部に溜まった切粉を掃き出す専用カキ板がついており、滞留切粉によるトラブルを防ぎます。
また、ヒンジベルトのローラー・ピンは耐久性を高めるために硬化処理されています。 難削材などを加工する場合は、摩耗対策としてローラーやレール部を硬化処理するオプションも用意しています。

長時間の無人化運転

コンベアを長時間にわたって無人化運転させるためには、コンベアの不具合を自動検知できる仕組みが必要です。

Turbo HBには保護回路付きの制御盤が標準装備されており、想定外の負荷がかかった場合など、異常を検知するとアラームとともにコンベアを自動停止させることができます。 オプションの機械式クラッチと組み合わせて使うことで、モーターやベルトの破損を未然に防ぎます。

豊富な標準オプション

エアヘッダー

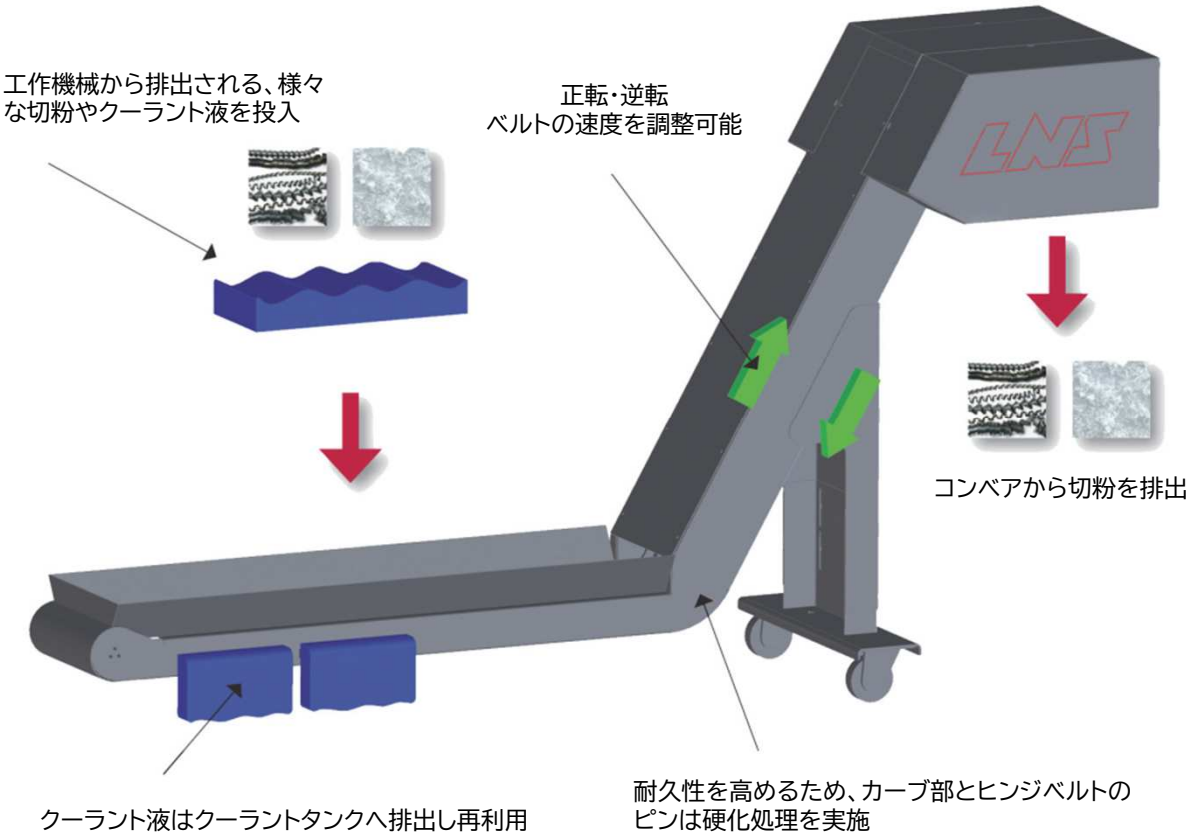
細かな切粉がクーラント液によって、ヒンジプレートに付着、コンベア本体内に持ち帰ってしまうことがあります。 オプションのエアーヘッダーを使用すれば、切粉を持ち帰る前に圧縮空気を使って効果的に除去することができます。

チップストリッパー

のこぎり状の歯がついた部品を使い、糸状切粉や絡まりあった切粉の塊をひきちぎって排出口から排出します。からみやすい切粉を細断することで切粉詰まりの発生を防止します。

可変速装置

標準の制御盤にはインバーターが搭載されており、モーターの回転速度を自由に変更することができます。 加工条件に合わせてベルトの速度を調整できるので、搬送量が少ない場合は搬送速度を落としてクーラント液の持ち出し量を少なくすることも可能です。



• 本仕様は予告なく変更される場合があります。

合同会社 LNSジャパン 営業本部
〒450-0002 愛知県名古屋市
中村区名駅4-2-12 松陽ビル 6F
TEL: +81 52 446 7222
URL: https://www.LNS-Japan.com
E-mail: Mail@LNS-Japan.com

Subject to modifications / LNS TURBO HB JA/ 10-2025